

TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線

Magazine

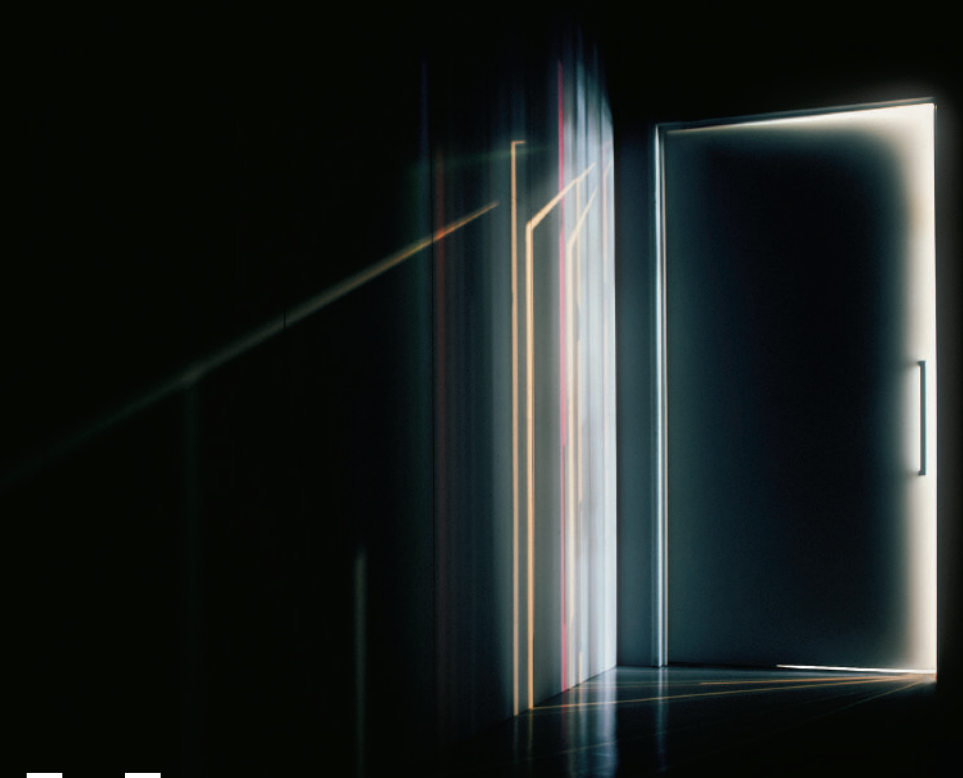
2021 Spring

Vol.06

Supported by
Discover Japan

TAKE
FREE

見えていても
見ないこと
見えなくても、
見えること



誰もが主役に
このミュージアムは
対話を展示する

五感を研ぎ澄ますソーシャルエンターテインメント「ダイアログ・ミュージアム『対話の森』」。
「見えないからこそ、みえるもの。聞こえないからこそ、聴こえるもの。老いるからこそ、学べること。」
障がい、世代、性別、文化、民族など、さまざまなものを超えた出会いから対話が生まれる。
その対話を通して人は変化し、その変化は世界を進化させる力を秘めている。



5



6



4



2



3



1

出会いが生む 変化が生まれる…… 対話が重なり合うと

「対話」を通じた
エンターテインメント

光を閉ざした真つ暗闇の中を、視覚障がい者のアテンドとともに歩く。『見えない』ことで『みる』ことを問い直すソーシャルエンターテインメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」は1988（昭和63）年、ドイツの哲学博士アン・ドレアス・ハイネッケ氏の発案で生まれた。これまで世界50カ国以上で開催され、900万人以上が体験している。日本では1999（平成11）年11月の初開催以来、体験者は23万人を超える。代表理事の志村季世恵さんは、

「ドイツ人の父親とユダヤ人の母親のもとに生まれたハイネッケは、文化や民族など、いろいろな違いからくる争いを解決したいと願い、違いをダイアログ＝対話を通じたエンターテインメントとして、人とのかわりや対話の大切さを五感で感じられるものとして考案したんです」

と教えてくれた。日本では初開催以降、年1〜4回のペースで、東京を中心に各地で開催を続けた。「有志が集まって、その都度、開催していたのですが、あるとき、目の見えないアテンドが『開催中の3カ月は活躍できるけど、終わればまた、ただの障がい者に戻ってしまう。まるでシンデレラみたい』と言ったんです。それを聞いて、障がいがあっても対等に活躍できる、対話できる場所の必要性をあらためて実感しました」

その想いから、2009年には東京・神宮外苑に常設会場を開設。さらに2017年には、聴覚障がい者がアテンドする「ダイアログ・イン・サイレンス」静けさの中の対話、2019年には後期高齢者がアテンドする「ダイアログ・ウィズ・タイム」を日本で初開催した。そして昨年、ダーク、サイレンス、タイムという3つの「対話」を体験できる「ダイアログ・ミュージアム『対話の森』」が竹芝に誕生した。

認め合い、支え合いながら
みんなで守り育てる「森」

「ダイアログ・ミュージアム『対話の森』」の展示物は「対話」。

「なにも話すことばかりを意味するのではなく、表情や感情、笑い声や身ぶりなど、人とかかわることと生まれるすべてのもの。そして、そうした人とかかわりを通して見えてくる、自分自身の気づきも対話だと思います。人と人が出会うと対話が生まれ、対話が重なり合うと変化が生まれます」

「対話の森」では、開館に際し、「対話とは？」をテーマに言葉を集集。結果、1400名から寄せられた言葉をらせん状につないだものをロゴとしている。言葉は今後も追加され、それに応じてロゴは進化する。「みんなで一緒につくっていくたい」という想いを表したものであり、「対話の森」という名にも、「鎮守の森のように」

みんなで守り育てる場所にした「い」という願いが込められている。「絵画や演劇など、一般のアートやエンターテインメントは、鑑賞の対象があつて、お客さんはあくまでお客さん。でもここは、相互のかかわりである『対話』が展示物ですから、誰もが主役になれる。みんなでつくる『森』なんです」

対話を通じたエンターテインメントを楽しむうち、同じものを見たり聞いたりしても、いままでと違う感じ方ができるようになる。「満員電車でも人とぶつかるのは嫌でも、暗闇だと安心する。普段は恥ずかしくても、ここでは素直に助け合える。そういう人の温かさを感じられるようになるんです。それを暮らしや生き方に反映してほしいと思います。違いを認め合った上で助け合う社会を、頭ではなく五感で理解し、広め合う。みんなで明るい未来を育てる『森』になれたらいいなと思います」



代表理事
志村季世恵さん

しむら・きよえ。パースセラピストとしての活動と並行して、ダイアログ・ジャパン・ソサエティの代表理事として、ダイアログ・ミュージアム「対話の森」の運営に力を注いでいる



DATA
ダイアログ・ミュージアム
「対話の森」

住所：東京都港区海岸1-10-45
アトレ竹芝シアター棟1F
Tel：03-6231-1634
開催時間：11:00～21:00
（日程により異なる。
HP予約ページを参照）
参加料金：3500円、
中高生・大学・大学院生2500円、
小学生1500円（いずれも税別）
<https://taiwanomori.dialogue.or.jp>

一人ひとりの“個彩”を生かす教育で 知識を生きていくための知恵に変える

SPACE



代表取締役
最高情報責任者 (CEO)
福本理恵さん

ふくもと・りえ。東京大学先端科学技術研究センターの交流研究員を経て、東京大学大学院博士課程に進学。「異才発掘プロジェクトROCKET」のプロジェクトリーダーとしての知見を生かし、2020年8月にSPACEを創業した

DATA

住所：東京都世田谷区北沢
1-19-15-302
Tel：03-4455-9259
<https://space-inc.jp>



「魚は魚か!? 魚の進化を追え」をテーマにしたオンライン授業（ライブ）の様子。本物の魚に触れ、観察しながら学ぶプログラム

自分らしく学べる教育が
自分らしく生きる力になる

「子どもが100人いれば100通りの感じ方があり、それぞれに合う学び方があります。その一人ひとりの才能を生かす教育の仕組みをつくりたいと思っています」
個別最適な学びの社会実装を進める「SPACE」の福本理恵さんは、起業のきっかけをそう教えてくれた。福本さんは、東京大学と日本財団が共同で行う、学校での集団学習にはなじめないが、ユニークな才能（異才）をもつ子どもたちを対象とした「異才発掘プロジェクトROCKET」のプロジェクト

リーダーとして、2014（平成26）年の立ち上げから運営まで、5年間にわたって全般を指揮した。「ROCKET」では、教科書ではなく、活動（体験）を通して学びます。知識をつめ込むのではなく、必要なものを必要とときに取り入れて学ぶ。その必要は子ども自身が決めます。そうして、いろいろな選択肢の中から子どもが自分で考えて判断し、自分の行動に責任をもちながら学ぶ。そういう仕組みが日本の社会に必要なと感じています。そのためには、教育を学校内に閉じるのではなく、社会と共有・連携することが大切だと考えています」

たとえば、福本



オンライン授業とフィールドワークを組み合わせた「宝島キッズラーニングプロジェクト」で訪れた、三宅島でのフィールドワークの様子

さんが広島県で手掛けたプログラムでは、日本酒をテーマに、酒と水の違い、精米の仕方、手作業と機械化の違いなど、子どもたちはいろいろな教科にひも付く知識を、体験を通して楽しみながら学んだ。さらに酒蔵の職人をはじめ、地元の人たちを巻き込むことによって、地域自体の活

性化も促した。「子どもたちは、実際に知識が必要とされる場面で、体験を通して学ぶので、その知識がどう役立つのかを身をもって理解できます。知識を、生きていくために必要な知恵に変えられるんです。これは教科書の中だけでは学べません。そもそも、全教科をまんべんなく学ぶ必要はないと思っています。子どもが自分の興味のあることについて探究し続けるだけでも、いろいろな教科の知識が逆三角形に広がっていきますから。むしろこれからの時代は、子どもがキュレイトしたものをタグ付けして、ひとつのきっかけからこれだけの知識を学んだのだということ、フィードバックすればいいと思うんです。もしほかのものに興味が移ったとして、足りない知識があれば、必要に応じて補っていく。そういう学び方もできると思っています」

「自分らしくあるってどういうことだろう、自分にしかできないことってなんだろうという想いは誰にでもあって、それが他人と同一化し過ぎると、存在意義がなくなると感じている子どもが多いんです。それは大人だって変わりません。ひとつの軸を目指すゴールで互いに競争させるのではなく、互いの違いを生かして協同する。違いを認め合って、自分ができることを出し合う中で、多様な才能を発揮し合える場が生まれていくのではないのでしょうか。そのために必要なのは、自分らしさを際立てる教育。学習の方法や内容、場所など、いろいろな選択肢のある環境を整えることだと思っています。子ども一人ひとりが自分に自信をもって、自分らしく生きてほしい——それが私の願いです」

“Be a changer, be a challenger”
 まずは自分で**考え**自分で**動く**こと。

DOYA「CLOUDY」



バッグ内側の巾着は、一つひとつが手づくり。ニットのテキスタイルデザインはアフリカで育成したデザイナーが手掛けたもの。ちなみに「CLOUDY」の商品タグには「5」などの数字が書いてある。これは、売り上げの「5」%を学校設立のために使うなど、商品を買うことがどのような支援につながるのかを示している



代表取締役社長 銅冶勇人さん

どうや・ゆうと。2008年に慶應義塾大学経済学部卒業。ゴールドマン・サックス証券に在職中の2010年、特定非営利活動法人Doooooooを設立。同社を退職後の2015年1月、株式会社DOYAを設立。9月にブランド「CLOUDY」を立ち上げた

継続性のあるものづくりでみんなを笑顔にする
 「五感で衝撃を受けました」
 アフリカンテイストを取り入れたアパレルブランド「CLOUDY」の銅冶勇人さんは、大学の卒業旅行ではじめて訪れたアフリカで、スラム街に足を踏み入れたときの想いをそう語った。

「何百万人がごみの山に埋もれるように暮らしていて、とてもない匂いが立ち込めていました。物乞いをする子どもたちの手は、ザラザラに荒れていて、悲鳴や罵倒、銃声がどこからともなく聞こえる。それまで自分が生きてきた世界とはまったく違いました。そのとき、自分にできることを何かしたいと直感的に思っただけです」

卒業旅行から帰ってすぐ現地の施設への送金をはじめ、社会人3年目にはNPO法人を立ち上げた。ちょうどその頃、東日本大震災が起き、被災地へ毎週末、足を運んで、さまざまな支援活動を行った。その経験から、実際に現地で行動を起こすことの大切さを実感した銅冶さんは2015(平成27)年、会社を退職し、株式会社DOYAを起業。同年に立ち上げた「CLOUDY」の名には、「ネガティブなイメージのある『曇りの日』を『晴れの日』に変えられるようなものづくりをしていこう、という願いを込めました」

足し算ができない、メジャーで測ることができない、そういう人がほとんどでした。そこですは、無地のTシャツに民族衣装の布をポケットとして縫い付けるシンプルでTシャツからはじめました。それでも当初は100枚つくって、商品になるのは10枚くらい。とはいえ練習の段階から賃金を払うことのできる仕組みをつくりました。諦めずに、根気よく伝えて一緒に頑張れば、必ずかたちになります。大切なのは、現地のスキルに水準を合わせた上で、売れる商品を考えること。ビジネスとして成立させ、継続させることが雇用につながりますから」

「自分がやりたいからやっているというだけです。CLOUDYを通して、つくってくださる人、購入してくださる人、応援してくださる人、かわつてくださる人、そのみんなに喜んでもらうにはどうしたらいいかを考えています。同時に、みんなと同じじゃつまらない、同じじゃなくていいとも思っています。『右向け右』じゃなくて、『右向け左』。自分で確信できているなら、自信をもって行動したい。大切なのは自分で考えて実際に行動すること。そうしなければ何もはじまりません。Be a changer, be a challenger. 人は誰しも、何かを変える可能性と権利をもっています。自分に何ができるかを考え、ほんの少しでもいいから動く。それだけで相手を笑顔にすることができるようになります」

DATA

住所：東京都
 渋谷区神宮前
 6-20-10 RAYARD
 MIYASHITA PARK
 South 2F
 Tel: 03-6450-5110
<https://cloudy-tokyo.com>



マツ六「LOHATES」



座面につけられた2°の傾斜がスムーズな立ち上がりをサポートする「LOHATES STOOL 2°」。座面の高さは2種類あり、身長や筋力に合わせて選ぶことができる

LOHATES (ロハテス)

主に介護用手すりの開発・販売を行うマツ六株式会社がアクティブシニアをメインターゲットに企画・開発した手すり。昨秋には、シリーズ商品として、立ち座りをデザインしたスツール「LOHATES STOOL 2°」も発売

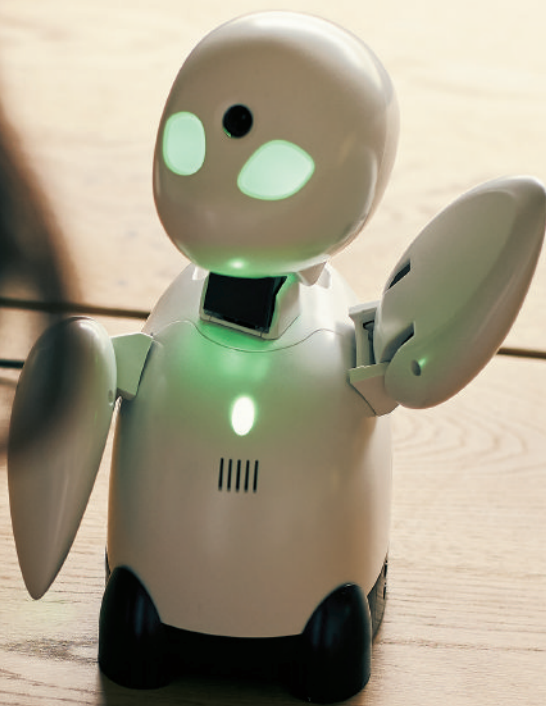
DATA

住所：大阪府大阪市天王寺区四天王寺1-5-47
Tel：06-6774-2231 (H1営業部)
www.mazroc.co.jp/lohates

大切な人に贈りたい家族のような手すり「LOHATES」は、一見では手すりとはわからないシンプルでモダンなデザインが特長。4本足で安定感がありながら、重量は1・8kgと軽く、必要な場所へ持ち運んで使える。カラーはホワイト、ブラックの2色あり、オプションとしてトレイ、マガジンラック（各2色）もある。他のインテリアや好みに合うものを選ぶことで、暮らしにすっと馴染み、寄り添ってくれる。元はアクティブシニア向けに開発した

もので、「大切な人に贈りたい、家族のような手すり」を目指しました」と開発担当者は語る。購入者層は40〜60代が中心で、その多くがプレゼントだという。高齢者にとって、立ち上がるという動作は、足腰に負担がかかりやすく転倒のリスクもある。また、けがからのリハビリ中や妊娠中の人など、「LOHATES」が支えるのは高齢者に限らない。日々の暮らしの中で立ち上がりをさりげなくサポートする「LOHATES」を大切な人に贈る。そこにはより安全に、より豊かに毎日を送ってほしいという思いが込められている。

大切な人を想う気持ちをカタチにした
暮らしになじみ、寄り添う手すり



オリィ研究所「OriHime」

できないことをできるに変えて 孤独を解消する分身ロボット

分身による社会参加で
人と人との関係性を提供

分身ロボット「OriHime」を開発した吉藤オリィさんが目指すのは、テクノロジーで人類の孤独を解消すること。何らかの理由で「移動」「対話」「役割」を失い、社会に参加できないことが孤独の原因であると考え、これらの課題を解決するツールとして、分身ロボットによる社会参加を提唱する。

「OriHime」は、遠隔操作で周囲を見回したり、身ぶりを交えつつ会話に参加したりできる。パソコンなどの通信機器とは異なり、離れた場所にいながらも、その場にいる感覚を共有できるのが特長だ。「とはいえ、分身ロボットはあくまでツールです。私たちが最終的に提供したいのは、人それぞれに合った関係性。友達をつくることや、居場所をつくることはできませんが、それらを平等に後押しし、人生を豊かにする関係性を提供する技術、私たちはこれをリレーシヨンテクノロジーと呼んでいます」

代表取締役CEO
吉藤オリィさん

よしふじ・おりい。高校在学中より科学技術分野で数々の賞に輝き、高等専門学校で人工知能を学んだ後、早稲田大学創造理工学部へ進学。在学中、「OriHime」を開発。2012年、株式会社オリィ研究所を設立

DATA

住所：東京都港区芝5-1-13
三ツ輪三田ビル6F
Tel：非公開 <https://orylab.com>



身体障がいなどで外出困難な人でも、接客などの就労を可能にした「OriHime-D」(右)。6月には東京・日本橋に常設の分身ロボットカフェを開業予定



QUONチョコレート



目下の目標は、国内最大級の祭典「アムール・デュ・ショコラ」で上位20位に入ること。結果を出すことで「すべての人に無限の可能性があることをひとりで多くの人に伝えたい」という

代表
夏目浩次さん

なつめ・ひろつぐ。一般社団法人ラ・バルカグループ理事長。2003年、障がい者の雇用促進と低賃金からの脱却を目的とする「花園パン工房ラ・バルカ」を開業。'14年「久遠チョコレート」事業を立ち上げた

DATA

住所：(豊橋本店) 愛知県豊橋市
松葉町1-4 榊原ビル1F
Tel：0532-53-5577
<https://quon-choco.com>

凸凹を組み合わせ
皆が豊かに暮らせる社会を
障がい者の雇用促進と低賃金からの脱却を目指す夏目浩次さんが立ち上げた「久遠チョコレート」は、障がい者が「働ける」場所ではなく「稼げる」場所。「お客さまを満足させつつ、誰も置き去りにせずにつくれるもの。それがチョコレートでした」。ほかにも「久遠チョコレート」で働くのはシングルマザー、不登校や引きこもりの人など多様だが、約500人のうち菓子製造経験者はわずか5%。「正直、調整は大変です。でも」

流のものを「つくる」という強い想いを共有しながら真剣にもがいていれば、必ず成長しますから」と言う夏目さんがミッションに掲げるのは、センスある社会をつくること。「いまは、属性や環境を理由に生きづらさや暮らしづらさが生じるといふナンセンスだらけ。それを「仕方ない」と片づけるのではなく、向き合って解消する。誰ひとりとして同じ人はいませんし、不要な人はひとりもいません。みんな凸凹が違っていい。それをパズルを組み合わせるように織りなせば、きっと豊かでカラフルな社会になるはずですよ」

ナンセンスと向き合い、もがいた先に
カラフルな社会が見えてくる



Social Good Roasters 千代田

コーヒーをツールに

誰ひとり取り残さない社会を

「福祉だからではなく、カフェとしての価値で勝負」

コーヒーの香りが漂う洗練された空間。丁寧に焙煎された極上の一杯に、客足が絶えない。

「ここは私たち一般社団法人ビーンズと千代田区が協同で設立した焙煎所兼カフェを併設する福祉施設。障がいのある方が働くことの第一歩を踏み出すための場所でもあります」

そう語るのは代表理事の坂野拓海さん。障がいの有無にかかわらず、誰もが活躍できる社会を目指して経営コンサルティングから転身、多くの福祉事業を手掛ける。

「福祉施設を支援したいからではなく、コーヒーが美味しいから足が向く。そんな価値のある場所でありたいですね。だから、豆を一粒ひと粒手で選り分け、世界基準を誇る GIESEN の焙煎機でローストし、独自のブレンドで味わいを追求しています」

生き生きと働くスタッフも、訪れる人に強い印象を残す。

「誰もが障がいをもつ可能性はあるけれど、『障がいがあっても社会から隔絶されるわけじゃない、こんな生き方もある』と知れたら、安心できませんか？」

知ることが安心に、共感に、敬意につながり、その先の社会に多様性をもたらししていく。ソーシャルグッドな循環の入り口が、一杯のコーヒーなのだ。

コーヒーの利益を用いて、支援を要する生産者の生豆を適正価格で仕入れることも続けてきた。売上もまた循環している。

「私たちのビジョンは、誰ひとり取り残さないこと。すべてはそのためツールなんです」



DATA

住所：東京都千代田区神田錦町 1-14-13
LANDPOOL KANDA TERRACE 2F
Tel：03-6811-0895
営業時間：10:00～16:00
定休日：日曜
<https://sgroasters.jp>



ココ・ファーム・ワイナリー

ともに働き、ともに生きる喜びが 園生の誇りと二流のワインを生む

一教師の想いから生まれた
ブドウ畑とワイナリー

山の急斜面に広がるブドウ畑で、
農作業に勤しむのは、知的障がい
者支援施設「こころみ学園」の園
生たち。育てたブドウは「ココ・
ファーム・ワイナリー」のワイン
となる。畑は1958(昭和33)年、
当時の特殊学級の中学生たちと担
任の川田昇さんによって開かれた。
川田さんは、何もできないと思わ
れ、誰からもあてにされていなか
った子どもたちに働く喜びを感じ
てほしいと、私財を投じて山を購
入。農作業をともにするうち、子

どもたちの身体はたくましくなり、
心も安定していった。「昔ながら
の農家の暮らしの中で我慢もしな
ければなりません。その我慢が人
を育てます。何より、誰かの役に
立っていると実感することが自信
になり、心を成長させます」と、
川田さんの孫・池上峻さんは教え
てくれた。現在、こころみ学園に
は約140名の園生がおり、何ら
かのかたちで皆、ワイン造りに携
わっている。「真剣にものづくりに
励んでいるからこそ周囲に認め
てもらえるのだと思います」。そ
してそれが園生の誇りとなり、生
きる力につながる。



上) ワイナリーのスタッフの皆さん。畑では開墾以来、除草剤を一切使わずに、園生が手作業でブドウを育てている。下)「ココ・ファーム・ワイナリー」のワインは国内外で高い評価を得ている

取締役 池上 峻さん

いけがみ・たかし。こころみ学園の初代園長であり、ココ・ファーム・ワイナリーの設立に尽力した川田昇さんの孫にあたる。園生とともに学園で暮らした経験をもち、現在ともに農作業、ワイン造りを行っている

DATA

住所：栃木県足利市田島町611

Tel：0284-42-1194 <https://cocowine.com>

すべての人が自分らしく 幸せに生きられる 社会を目指して

JobRainbow

代表取締役CEO
星 賢人さん

ほし・けんと。1993年生まれ。
東京大学大学院在学中に起業。
数々のビジネスコンテストで優勝
し、『Forbes JAPAN』による「30
UNDER 30 JAPAN 2019」を受賞、
ソフトバンクの孫正義による孫正
義育英財団の財団生としても選出



「自分らしくを誇らしく」
LGBTの就職をサポート

求人サイト「JobRainbow」には、
約400社の求人情報が掲載され
ており、そのすべてがLGBT（レ
ズビアン、ゲイ、バイセクシャル
トランスジェンダー）に対して偏

見なく、平等に受け
入れるLGBTフレ
ンドリー企業である。

JobRainbowは、1
00の観点で企業の
ダイバーシティ&イ
ンクルージョンを評
価する、独自のダイ
バーシティスコアを
設定。それに基づき
審査し、LGBT研
修を実施した企業のみを掲載している。

「僕自身、セクシャ
ルマイノリティの当
事者として、LGBT
T学生が卒業後、自
分らしく働くことの難しさを目の
当たりにしました。セクシャリテ
ィと仕事の能力はまったく関係あ
りません。少子高齢化が進むいま、
活躍すべき人材が活躍できない環
境は社会損失ともいえます」とい
う星賢人さんは、すべてのLGT
BTが自分らしく働ける社会の創

造を目指す、起業。求人サイト運
営のほか、LGBTについて学ぶ
研修や職場環境改善のためのコン
サルティング、合同企業説明会を
通じた採用支援、企業ブランディ
ングなど、トータルソリューション
を提供している。LGBT学生
向けの就活に関する書籍やアプリ、
企業向けのLGBTフレンドリー
マニュアルなどもつくっている。

「増えつつあるとはいえ、日本では
LGBTフレンドリー企業がま
だ少ないですから、企業を
育成していくことも必要だ
と感じています。ただこの
点に関しては、ノウハウが
たまたたらデジタル化して、
いずれは無料にしたいと思
っています。フレンドリー
になるのにお金がかかるつ
てなんだか変だと思っ
て」。また星さんは、就職
に限らず、結婚、介護など、
さまざまなライフイベント
における課題解決にも取り
組みたいと意気込む。「そ
れが当人の幸せにつながる
のはもちろんですが、幸
せに生きているLGBTが増
えれば、その姿は次の世代
の希望になりますから」。

現在、星さんがミッシ
ョンとして掲げるのは、個に

なめらかな社会へアップデート。
LGBTに限らず、すべての人が
自分らしく生きられる社会の創造
を目指す。「違いのない人はいま
せん。ただ、違いの度合いによつ
て生きづらさが異なり、その根源
は社会の構造にあります。そこを
テクノロジーの力で解決してい
きたいと思っています」。その先
には、星さんが思い描く「差異を
彩に。自分らしくを誇らしく」思
える社会が待っている。



右) 合同採用イベント「ジョブレインボー LGBT仕事博」の様子。左) LGBT研修は、
プライダルやホテルなど、業界特有の課題に合わせたプログラムも用意している

DATA

住所：東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷・道玄坂坂本ビル6F
Tel：050-1745-6489 <https://jobrainbow.jp>

池袋駅 / LIKEBUKURO



西日暮里駅 / 西日暮里スクランブル



東京感動線トレン

高田馬場駅 / まちの交流拠点



新大久保駅 / Kimchi, Durian, Cardamom...

東京の、
ちょっとだけ
未来の景色。



TOKYO SEEDS PROJECT



HAND! in Yamanote Line

東京感動線×TABICA



有楽町駅 / HELLO!有楽町



東京感動線

ここでは、いろいろな街と街、いろいろな人と人が、
山手線という、フシギな輪っかにつながっている。
違うもの同士が、つながりながら、ひろがっている。

そこから生まれてくるものは、
思いもよらない発見、出会い、楽しさ、優しさ…。
心が動き動かされる、新鮮な日々。

そこに生きるみんなで、
東京を世界でいちばんの感動に満ちた
ワンダープレイスにしていけたらいいと思う。

具体的に何が生まれるかは、きっと本当にいろいろ、
そしてまだ、本当に未知数だらけ。

でもそれが、これからいろいろな人たちと
いっしょにつくっていく、
開かれた山手線の可能性だと思う。